

実践2024 正誤表

巻	頁	項目	誤	正	訂正日
2.基礎 上	242	105C115 e肢 解説	×e: ~一方、成人以降の加齢に伴い、睡眠中の覚醒回数やnon-REM睡眠第3・4段階、総睡眠時間は減少するが、~	×e: ~一方、成人以降の加齢に伴い、睡眠中の覚醒回数は増加し、non-REM睡眠第3・4段階、総睡眠時間は減少するが、~	2023/4/25
4.衛生	12	113C89 問題文	解答: 0.①②%	解答: 0.①②	2023/6/20
	39	111D89 問題文	解答: ①.②%	解答: ①.②	2023/5/9
9.小児歯科学	351	114C75 e肢 解説	×e: 非対称性緊張性顎反射は顎が上がると上肢が伸展し下肢が屈曲、顎が下がると上肢が屈曲し下肢が伸展する。顎位を固定できていれば、突然の動きの変化は少ない。	×e: 非対称性緊張性顎反射は一方に顔を向けたり傾けたりすると、その側の上肢・下肢が伸展し、反対側の上肢・下肢が屈曲する反射である。顎位を固定できていれば、突然の動きの変化は少ない。	2023/9/6
10.歯科矯正学	89	109B1 c肢 解説	×c: ~ⅢB期の特徴である側方歯群の後退はまだみられない。~	×c: ~ⅢB期の特徴である側方歯群の交換はまだみられない。~	2023/8/1
	223	113B41 a肢 解説	×a: アはバードピークプライヤーである。太いワイヤーの屈曲に用いる。	×a: アはバードピークプライヤーである。細いワイヤーの屈曲に用いる。	2023/9/11
	224	115C26 b肢 解説	×b: イはバードピークプライヤーであり、太いラウンドワイヤーの屈曲に用いる。	×b: イはバードピークプライヤーであり、細いラウンドワイヤーの屈曲に用いる。	2023/9/11
12.口腔外科学 下	146	113B85 解き方・解説	画像所見 口腔内: ①境界不明瞭な白斑と潰瘍形成→悪性腫瘍の可能性がある 超音波: ①病変の径は10mm強、深達度は5mm程度 診断 舌扁平上皮癌 →原発巣の大きさ、深達度、各種転移がないことをふまえて T2N0M0に分類され、Stage IIである 解説 ×b: 免疫療法は、白金製剤抵抗性の再発、転移頭頸部癌に使用が承認されているものがあるが、 Stage IIの初期治療では適用しない。 ○c, d: 扁平上皮癌(T2N0M0)において治療の基本は手術による腫瘍切除である。本症例のように T1、T2の比較的腫瘍が小さく、リンパ節転移や遠隔転移のないものは、組織内照射も適応となる。	画像所見 口腔内: ①境界不明瞭な白斑と潰瘍形成→ 異型上皮 や悪性腫瘍の可能性はある 超音波: ① 長径10mm強、深達度2mm程度の低エコー領域 →すでに浸潤していると考えられる。原発巣は T1あるいはT2と考えられる 診断 舌扁平上皮癌 → 口腔内写真および超音波検査から推定される原発巣の大きさと深達度、各種転移がないことをふまえて、T1N0M0 Stage IまたはT2N0M0 Stage IIに分類される 解説 ×b: 免疫療法は、白金製剤抵抗性の再発、転移頭頸部癌に使用が承認されているものがあるが、 本症例は舌粘膜原発の治療前の症例であり、標準的な治療が優先される。 ○c, d: 扁平上皮癌において治療の基本は手術による腫瘍切除である。本症例のように T2までで比較的腫瘍が小さく、リンパ節転移や遠隔転移のないものは、組織内照射も適応となる。	2023/10/4
13.歯科麻酔学 歯科放射線学	346	108A86 d肢 解説	×d: 線維性異形成症は 境界明瞭な すりガラス状のエックス線不透過像が特徴的所見である。	×d: 線維性異形成症は 境界不明瞭な すりガラス状のエックス線不透過像が特徴的所見である。	2023/11/29

※2024年2月以降の訂正情報は、「実践2025」正誤表に移行いたします。あわせてご参照ください。